



# 雨とアジサイ

雨の降る日が多くなり、庭のアジサイが見頃を迎えました。梅雨時を代表する花は、なんといつてもアジサイです。

作家「林 芙美子」の命日は6月28日です。アジサイを好んだということで「あじさい忌」と呼ばれています。雨のよく似合うその花を命日に重ね、青春時代を尾道で育った作家・林芙美子をしのぶ「あじさい忌」には、芙美子の像の周りいっぱい色とりどりのアジサイが敷き詰められます。

「海が見える 海が見えた 五年振りに見る尾道の海は懐かしい」の一節で有名な「放浪記」。多感な時期を尾道で過ごした林芙美子は、生涯この町を愛しました。雨にぬれた花の姿は、妙に涙を連想させ林芙美子の人柄と重なって見えます。

さて、桜島の古里町にも林芙美子の文学碑があります。毅然とした芙美子の姿と母親

に想いをはせているかのような幼少期の銅像から、波乱の生涯であった女流作家・林芙美子をしのぶことができます。「放浪記」や「浮雲」などで知られる女流作家・林芙美子の母親は、桜島の古里町で暮らしたことがあり、林芙美子も幼いころの一時を鹿児島で過ごしたといえます。

古里町の石碑には林芙美子の好きだった「花のいのちは短くて、苦しきことのみ多かりき」の言葉が刻まれています。

6月。雨とアジサイの頃、時の流れの早さを感じる時でもあります。今年ももう半分が過ぎようとしています。カレンダーを見ながら半年の間にあつたさまざまなことを反省とともに思い出しています。そういう人のために6月末日には古来「夏越の祓」があります。大みそかの大神から半年の間にたまった罪穢れを消す行事です。



指宿市長  
豊留悦男

「目に見えないものに支えられて私たちは生きている」映画監督の河瀬直美さんの言葉です。目に見えないもの、それを河瀬監督は「大切な誰かの思いや、亡くなった人の面影」と話していたように思っています。

大切なものは目に見えない、とサンテグジュペリが「星の王子さま」の中で言わせた言葉に通じるようです。

6月。私にとって一つ年を重ねる特別な月です。

